

京都文化カプロジェクト関連事業  
**京都 祇園祭**  
 一町衆の情熱・山鉾の風流—

2020年3月24日(火)ー5月17日(日)

千年の都・京都。その都市としての精神を支えてきたのが祇園祭です。この展覧会では山鉾を飾る舶来の希少な懸装品や華麗な装飾品の数々を紹介し、世界に名だたる祇園祭の全貌を示すとともに、山鉾に込められた物語やその歴史、そして山鉾の装飾美として結実した京都の技術と芸術の粋を一堂に集めて、都の人びとが心を寄せてきた祇園祭の本質に迫ります。



祇園祭礼繪巻 冷泉為恭筆(部分) 國學院大學博物館蔵 嘉永元年(1848)

挑む浮世絵  
**国芳から芳年へ**

2020年6月6日(土)ー7月19日(日)

歌川国芳(1797-1861)は、旺盛な好奇心と豊かな表現力で戯画や武者絵を手がけた浮世絵師。その弟子の月岡芳年(1839-92)も、国芳の奇想の系譜を引きついで活躍しました。幕末から明治のユニークな浮世絵を展開した二人の人気絵師を中心に紹介します。恐くて面白い浮世絵の裏側、たっぷりご紹介します。



歌川国芳「相馬の内裏」  
名古屋市博物館蔵(高木繁コレクション)

**鈴木敏夫とジブリ展**

2020年7月30日(木)ー9月25日(金)

「生きねば」——漫画「風の谷のナウシカ」のラストで宮崎駿が書いた言葉であり、映画「風立ちぬ」のキャッチコピーでもあります。自らを編集者型プロデューサーと呼ぶ鈴木敏夫は、出版社で培った編集のノウハウを映画作りに応用しつつ、一方で、日本映画の宣伝、興行に革命をもたらしました。鈴木敏夫とは何者なのか、そのルーツと今を探ります。



©TS ©Studio Ghibli

京都文化カプロジェクト関連事業  
**舞妓モダン**

2020年10月6日(火)ー11月29日(日)

舞妓。いまや京都を代表する文化の一つとして知られていますが、その歴史の詳細は意外にも知られていません。どのようにして舞妓は京都のシンボルとなっていたのでしょうか。本展では、芸舞妓の誕生から、近代京都において、舞妓が京都のシンボルとして成長していく過程を絵画作品および風俗資料、歴史資料などから紹介します。



竹内栖鳳「アレタ立に」  
(1909)  
高屋史館蔵

**Kyoto Art for Tomorrow 2021**  
 ー京都府新鋭選抜展—

2021年1月23日(土)ー2月7日(日)

新進作家による卓抜した創造性、技術を備えた作品を紹介します。あわせて別館ホールでは、特別出品作家による展示を行います。

3階企画展

**京都工芸美術作家協会展**  
 ー創立75周年記念—

2021年1月15日(金)ー2月7日(日)

京都工芸美術作家協会の創立75周年を迎えるのを機に、陶磁、染織、漆、金工、人形、ガラス、七宝、木工など多岐にわたる分野の会派を超えた現代京都の工芸美術作家の多彩な作品約250点を展観します。

**木梨憲武**  
 Timing—瞬間の光り—

2021年2月16日(火)ー3月28日(日)

国内だけでなく、ニューヨーク、ロンドンでも個展を開催してきた木梨憲武。本展は25年にも及ぶ創作活動から、厳選された作品を一堂に集めた画家・木梨憲武の集大成です。その表現活動は、絵画、ドローイング、オブジェ、映像作品から木梨の広い交友関係を活かしたコラボレーション作品まで多岐にわたります。代表作から最新作まで「木梨ワールド」の現在を余すところなく紹介します。

木梨憲武(3116)  
2015年  
©NORITAKE KINASHI

	2020 3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	2021 1	2	3
4F	京都 祇園祭 一町衆の情熱・山鉾の風流—			挑む浮世絵 国芳から芳年へ		鈴木敏夫とジブリ展			舞妓モダン		京都府新鋭選抜展		木梨憲武 Timing—瞬間の光り—
3F											京都工芸美術作家協会展		
2F	三条御倉町 大橋家の歴史と美術		津田青楓と京都		皆川月華・泰蔵 明智光秀と戦国京都		池大雅 陽明文庫の名宝10		中川伊作と南蛮陶器 京都府内の学校所在資料展		動乱の世から太平の世へ		映画「羅生門」展
	雛人形名品展		京の翠とわざの粋		祇園祭		町のちから		近代博覧会と京都の産業		雛人形名品展		

2階総合展示室 京の至宝と文化

三條御倉町 大橋家の歴史と美術

2020年3月14日(土)ー4月19日(日)

京都における政治的・経済的な拠点であった三條御倉町。同地にあった大橋家旧蔵資料の調査・研究の成果をもとに、江戸時代における京都町人の歴史とその文化的意義について展観します。



谷口香嶺「義経勝浦上陸図」(部分)

生誕140周年 津田青楓と京都

2020年4月25日(土)ー6月14日(日)



津田青楓「うづら衣」より(山田芸神堂)  
1903年 スコット・ジョンソン蔵  
©Rieko Takahashi

京都の去風流家元の家生まれた津田青楓(1880-1978)。分野を超えた多彩な制作活動と、幅広い交流関係でも知られる青楓の作品や資料を、京都での活動に焦点を合わせてご紹介します。

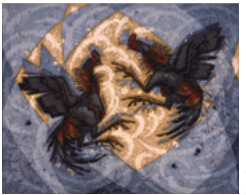


紺糸威羽丸

皆川月華・泰蔵

2020年6月20日(土)ー8月16日(日)

日本近代染色において先駆的な役割を果たした皆川月華(1892-1987)の作品を中心にご紹介します。



皆川月華  
双鶏 1963年

池大雅

2020年8月22日(土)ー10月18日(日)

18世紀の京都に生きた池大雅は、江戸時代を代表する文人画家の一人です。本展では、京都府が所蔵する池大雅美術館コレクションの中から選りすぐり、書画作品や大雅の人となりを示す貴重な資料をご紹介します。



池大雅 山亭小酌図(部分)

近衛家 王朝のみやび  
陽明文庫の名宝10

2020年8月22日(土)ー10月18日(日)

公家の名家、近衛家に伝わった平安時代以来の貴重な資料の中から、国宝「御堂関白記」を始めとする選りすぐりの名品をご紹介します。



春日権現豊験記絵巻 巻第20 陽明文庫蔵

中川伊作と南蛮陶器

2020年10月24日(土)ー12月6日(日)



片口 個人蔵

京都の版画家中川伊作が魅せられ蒐集した南蛮陶器(沖縄の焼き物)を中心に、自身の作品も併せてご紹介します。

京都府内の学校所在資料展

ー「京一中」「京一女」資料から—

2020年10月24日(土)ー12月6日(日)

2016年、2018年に続き、京都府内の学校が収蔵・利用・継承してきた資料を紹介します。今年度はとくに旧制中等学校由来の品々に注目します。



京都一中地歴同好会の収集した各地の案内  
京都府立鴨沂高等学校蔵

(公財)京都府埋蔵文化財調査研究センター設立40周年  
**動乱の世から太平の世へ**  
 ーかわりゆく人のくらし—

2020年12月12日(土)ー2021年1月31日(日)

戦国時代から江戸時代の京都の暮らしや文化を発掘調査の成果から紹介します。



京焼茶道具(皆具) 寺町旧城出土  
公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター管理

映画「羅生門」展

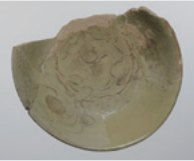
2021年2月6日(土)ー3月14日(日)

ヴェネチア国際映画祭での金獅子賞受賞などにより黒澤明の名を世界に知らしめた、日本映画史上の傑作「羅生門」が劇場公開から70年、監督生誕110年になります。それを記念し、作品の魅力を様々な視点で感じていただくと同時に、作品が制作された大映京都撮影所の歴史についてもご紹介します。

京の翠とわざの粋  
 ー緑釉陶器と緑釉瓦—

2020年4月11日(土)ー6月21日(日)

京の人々に好まれた緑釉陶器と緑釉瓦に焦点をあて、その奥深さと面白さを紹介します。



石作薫跡出土の緑釉陶器片

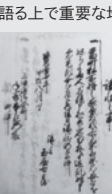
祇園祭

2020年6月27日(土)ー8月30日(日)

祇園祭は、日本を代表する祭礼として名高く、絢爛豪華な装飾品で飾られた山鉾は「動く美術館」とも称されています。祇園祭に登場する山鉾は、国の重要有形民俗文化財に指定されているほか、「山・鉾・屋台行事」のひとつとしてユネスコの無形文化遺産にも登録されています。この展示では、祇園祭の山鉾に関する歴史や文化をご紹介します。



菊水鉾巡行模型



展状写  
江戸時代中期～後期(個人蔵)

町のちから

ー三條御倉町文書の世界—

2020年9月5日(土)ー11月1日(日)

あなたに当館に寄託された「三條御倉町文書(木島家文書)」を通して平安時代以来、政治的・経済的な拠点として京都の歴史を語る上で重要な地域であった三條御倉町(三条通鳥丸西入)の歴史と文化を辿ります。

近代博覧会と京都の産業

2020年11月7日(土)ー2021年1月11日(日)

京都は他都市に先駆けて明治4年に京都博覧会を開催。これは東京・京都や廃仏毀釈などで大きなダメージを負った京都の産業を復興するための重要な事業のひとつでした。近代京都の一端を再検証します。



也阿弥ホテル

雛人形名品展

2021年2月2日(火)ー4月4日(日)

京都府の収蔵する雛人形より、選りすぐった優品を展示いたします。



古今雛 江戸時代後期

\*年間スケジュールの情報については主催者の都合で変更になる場合があります。\*2階総合展示室は、期間中、展示替のため休室する場合があります。\*各展覧会の詳細は当館HPでご確認ください。